

平成26 年度 文化庁日本語教育大会
2014年8月29日（金） 昭和女子大学

日本語教育の地域連携の可能性を考える — 外国人のライフサイクルという視点から—

生活者としての外国人のライフサイクル

川村千鶴子
大東文化大学

多文化社会研究会/GLOBAL AWARENESS

All Rights Reserved, Copyright (C) Chizuko Kawamura

越境する人びとの流動性：

外国人集住地区の拡大家族⇒多文化都市の創造



大久保通りの寝具店の前を観光バスが観光客を案内。
2011年筆者撮影



引用: http://www.shinjukuku-kankou.jp/map_index.html

アイデンティティの概念から

親密性(intimacy)に対する
心理・社会的な対立命題は、
孤立(isolation)、つまり誰からも離れ、
「誰からも目を向けられぬ」状態に
あることへの恐怖である。

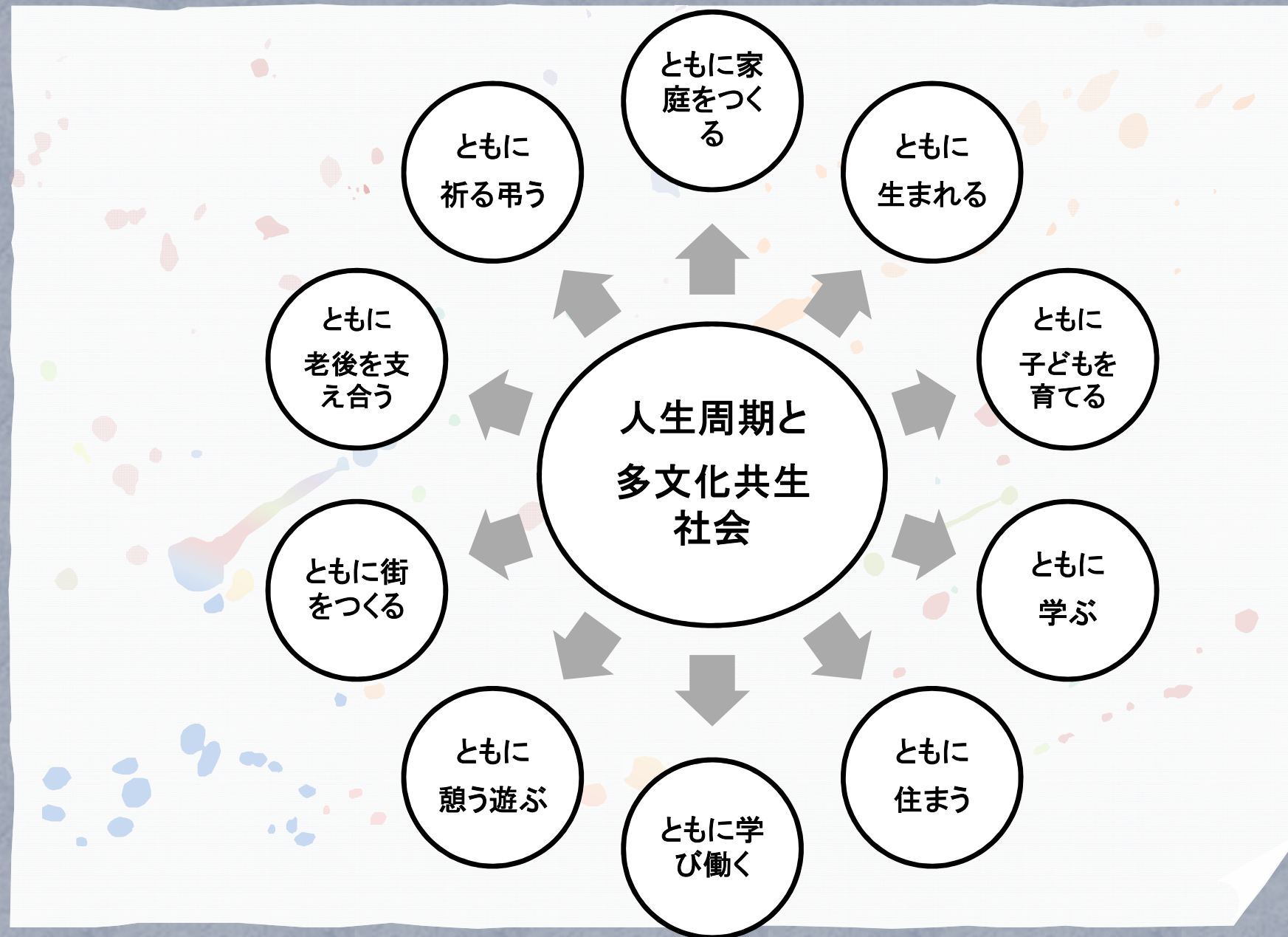
(E.H.エリクソン、1997年)

THE LIFE CYCLE COMPLETED

『ライフサイクル、その完結』2001－94

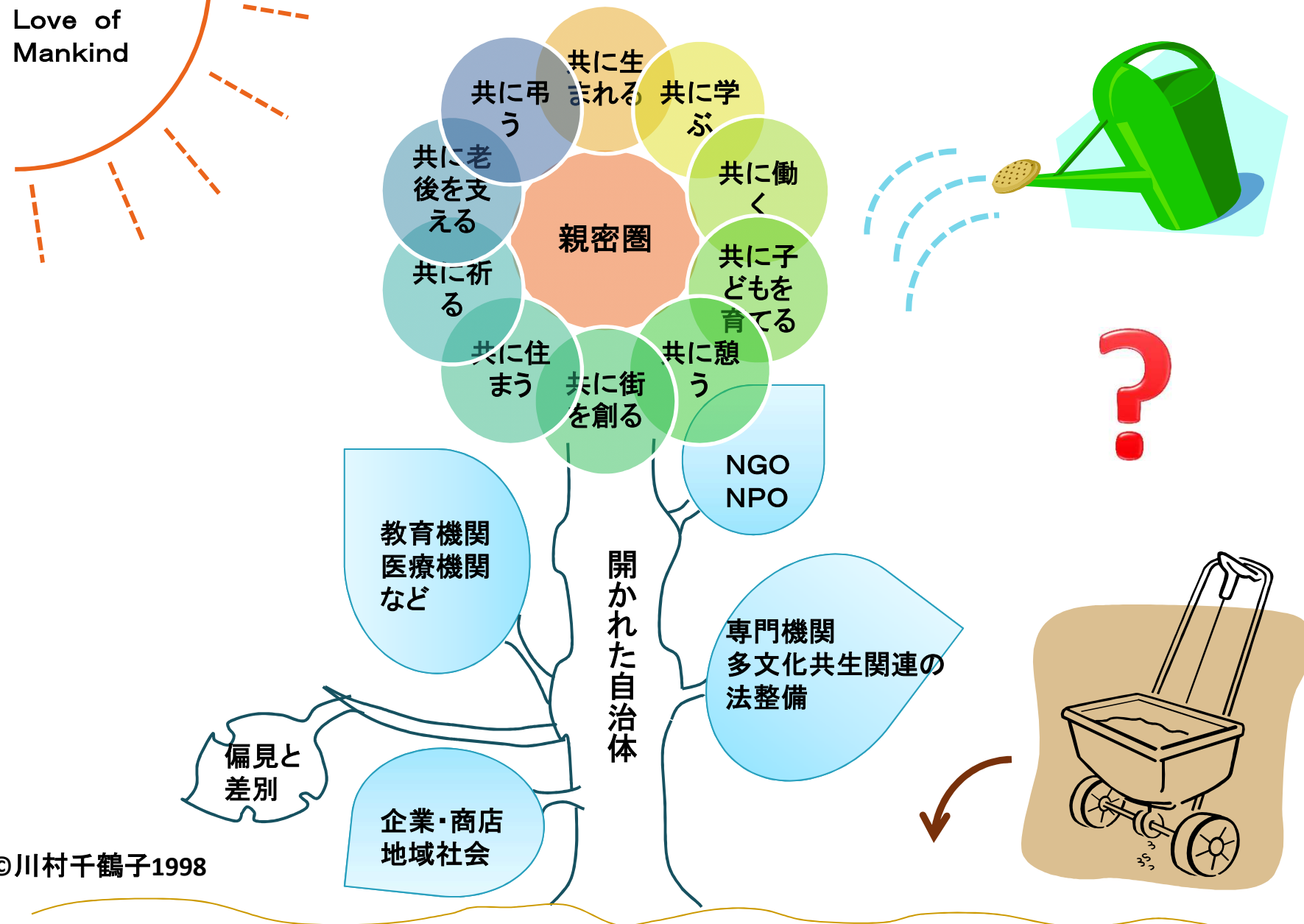


写真：Wikipedia



Love of
Mankind

接触領域・川村モデル



©川村千鶴子1998

共に住まう：不動産業の多言語対応

- 1991年 居住の差別を撤廃する基本条例
- 不動産業界の多言語対応 賃貸借契約の改善



多言語対応の不動産業者



礼金・敷金なしの賃貸物件

共に働く：外国人雇用と 企業の発展



職安通りにあるハローワークでは、新宿外国人雇用支援・指導センターが中央に設置されている。2011年、筆者撮影

共に働く： 自律する外国籍市民



外国人の起業と連携

お茶葉の
ビルマのサラダです



共に家庭をつくる：多文化家族の支援 家庭内の多文化化・多言語化⇒



共に生まれる：多文化化する母子保健

8 か国語の母子健康手帳

外国籍児童が7割を超える保育園



共に子供を育てる： 母語の習得と母文化の尊重



共に学ぶ：日本語学校・専門学校と ノンフォーマルな学び舎の創造



在日ビルマ人の日本語教室(都内)2014年6月～

共に憩う：安心の居場所の創造 ⇒格差社会の分断を防ぐ



共に遊ぶ： 新たな文化創造



共に遊ぶ：日本の伝統文化



共に街を創る：街の由緒



共に命を守る： 防災と被災地支援⇒生の保障



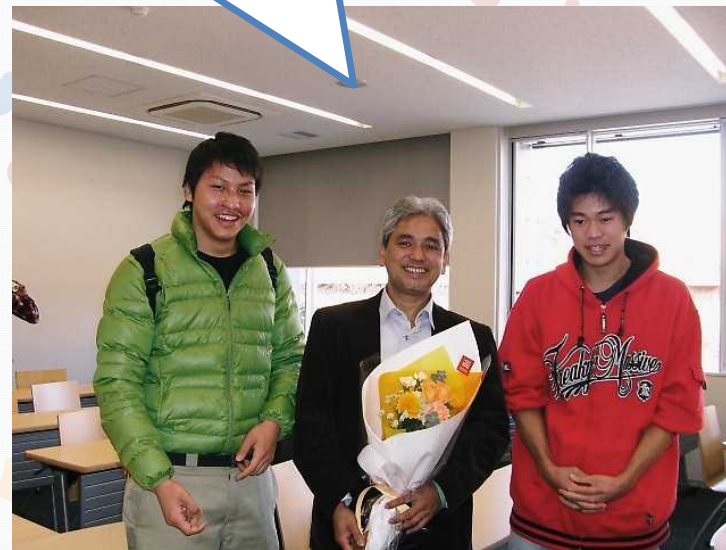
東日本大震災の復興支援「日韓友好チャリティー広場」。新宿区HP
東京韓国学校(新宿区若松町)の韓国伝統民謡を披露(2011年6月19日)

国籍の有無：難民と共に生きる



難民旅行証明書

大学のカリキュラム
と学生の主体性



共に祈る：心の拠り所の共存 教会・寺院・モスクでの礼拝



共に老後を支え合う： 多文化間医療・医療通訳



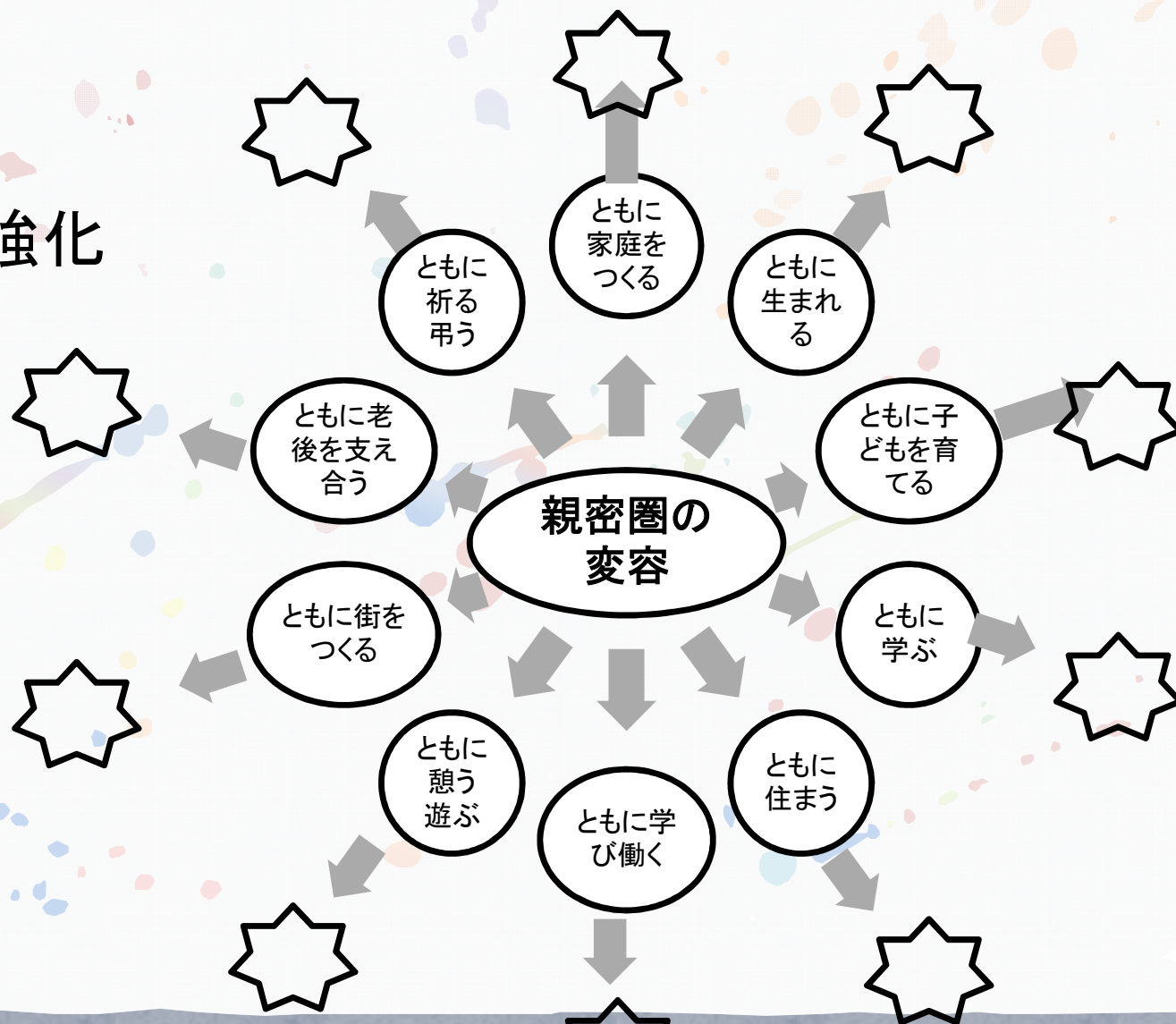
共に弔う： 「生」と「死」の普遍性の包摂



山梨県塩山 イスラム霊園
2011年5月、筆者撮影

親密圏の変容と生の保障

公共圏の強化



【安心の居場所・学び・信仰・遊びの場・憩いの場・情報交換の場・市民グループNPO・NGO】

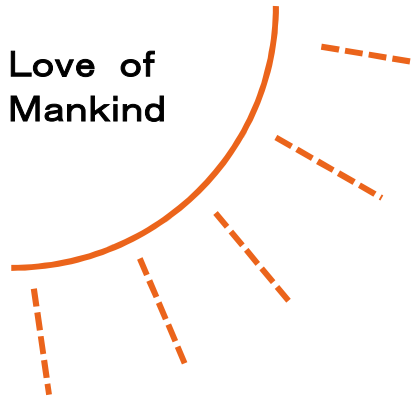
All Rights Reserved, Copyright (C) Chizuko Kawamura

世代から世代へのサイクル

1. 貧富・教育・性・年齢など格差社会の分断を防ぐ視点。
2. きめ細やかな多文化共生政策の長期的展望を可能にする。共生コストは将来の「投資」。
3. 人生に寄り添うことによって親密圏の両義性を捉える。
4. 家庭内の多文化化とトランスナショナルな地域空間を捉えることができる。
5. 人間に普遍的な「生」と「死」を扱うことで、多様な人生観、死生観、信仰に対する寛容性をもたらす。

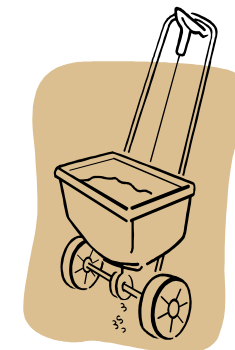
世代から世代へ 接触領域・川村モデル

Love of Mankind



長期的展望をもつ
多文化共生政策

グローバルな視座と
多文化意識の醸成



親密圏

共に生きる
共に学ぶ
共に働く
共に子供を育てる
共に憩う
共に街を創る
共に住まう
共に祈る
共に老後を支える
共に吊る

NGO
NPO

国の専門機関：
多文化共生関連
の法整備

教育機関
医療機関
企業など

地域社会
宗教施設

偏見と差別

開かれた自治体と情報の共有

©川村千鶴子